

主な工程

種球の植付け

種球を1つずつ溝の中央に指定された間隔・深さで埋め込んでいく。
植付けながら歩を進めることで、砂が溝になだれ、種球の上を砂が覆う。



アンケート抜粋

農業者「暑い時期なので、体調を崩さないか気になっていた。

早朝の作業のしやすい時間帯にでき、よかった。」

施設「植える間隔が判らない利用者がいた。お借りした日よけの帽子がとても役だった。」

作業における配慮、指導方法のポイント

植え付け間隔や深さが指示通りになっているか、チェックする。

植え溝が風等で埋まるので、植え付け作業は1日で終える。

砂畑が高温になるので、防暑衣や地下足袋等を装備する。

炎天下での作業になるため、熱中症・過労に注意する。

作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上					
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がいの 種	障がいの 類	身体	知的	精神	その他

白ネギ育苗用トレーの洗浄作業

モデル事業による受委託の事例

白ネギ生産農家からの請負作業。白ネギの苗を育成するための硬質プラスチック製のセルトレーの洗浄作業を行った。現在、野菜や花きの移植栽培の多くの場面でセルトレーが活用されており、洗浄作業は手間のかかる作業とのこと。

作業は施設の知的障がい者3人で行い、2日間で1,000枚のトレーを洗浄した。

農家のかたは「単純な作業ではあるが、洗浄するとなると手がかかるし、このようにやってもらえると大変助かる。今後の作業についても手にあまるものは作業委託することを考える。」と仕上がりには満足されたようだ。



作業は、3人1組で息を合わせて行う。

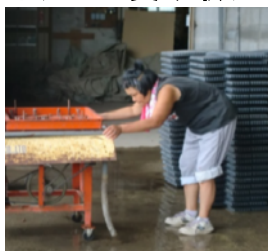
主な工程

トレーの挿入



洗浄機にトレーの上面を下にして挿入する。

トレーの受け取り



洗浄機内では流水によりトレーが洗浄される。送り出されるトレーを受けとり、次の作業者に渡す。

破損確認・積上



トレーに破損がないか確認しつつ、水切りし、乾燥のためにバランスをとりながら交差するようにトレーを積み上げる。

アンケート抜粋

農業者「各自の能力に応じた役割分担ができ、作業が順調にはかどった。」

施設「作業場入口日陰での作業であり、蒸し暑いものの炎天下の作業より多少は身体が楽だった。」

作業における配慮、指導方法のポイント

洗浄機の周辺では、手を挟むなどの事故がないよう注意する。

作業にあたる3人の連携プレーが必要。

中腰での作業になるので、姿勢に注意する。

洗浄機から出る機械音や流水音について、事前に確認する。

作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円台	2千円台	3千円台	4千円台	5千円台	6千円台	7千円台	8千円台	9千円台	1万円以上			
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
難易度	易しい	普通	難しい	地域性	西部	中部	東部	障がいの種	障がいの類	身体	知的	精神	その他

秋冬ネギ畑の除草作業

モデル事業による受委託の事例

鳥取県の代表的な農産物である白ネギ。秋冬ネギは10月から2月にかけて旬を迎える。除草作業は、1シーズンに3～4回程度行うとのこと。

県中部地域の白ネギ生産農家からの受託作業。ネギ畑の雑草をハサミや手で取り除き、畑の外に持ち出す作業で、草の大きさや種類により、ハサミを使うか手で取るかを決め、臨機応変に対応。

10アールのネギ畑を、障がい者3人で4日間かけ除草した。



■ 主な工程

ネギの株の間にある雑草の除草

雑草を、ハサミや手で取り除き、畑の外に持ち出す。



■ アンケート抜粋

農業者 「1人での除草は無理なので、手伝ってもらいありがたい。」

施設 「草取りをする際に、疲れな性格など農家のかたから聞いて、利用者に伝えればよかったと思った。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

ネギを折ったり、傷つけないように注意する。

畝(うね)を、出来るだけ崩さないようにする。

手取りした草(スギナ等)は、管理機にからむため畑の外に持ち出す。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円台	2千円台	3千円台	4千円台	5千円台	6千円台	7千円台	8千円台	9千円台	1万円以上		
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
難易度	易しい	普通	難しい	地域性	西部	中部	東部	障がいの種類	身体	知的	精神	その他

落花生の収穫作業

モデル事業による受委託の事例

だいせん 大山町では数十軒の農家で「だいせん大山ピーナッツ生産組合」を立ち上げ、地域ブランド「大山ピーナッツ」を特産品として生産している。作業は落花生を栽培している組合法人からの受託。

らっかせい 落花生の収穫は、機械で掘り起こし、作業にあたる障がい者らが手作業で引き抜き、天日乾燥のため葉を下にし、実が上になるように並べる。

こうして、2～3日程度は畑に置いて天日で乾燥し、さや取りをした後、さらにハウス等で乾燥させ、広島にある加工会社に出荷される。加工後、商品として主に道の駅「大山恵みの里」で販売されているとのこと。

今回の受託作業は、職員が3人同行し、施設の知的障がい者8人で1日作業し、12アールの畑の落花生を処理した。



主な工程

1. トラクターを使って掘り起こされた落花生を引き抜く。



2. 落花生を葉が下、実を上にした状態で並べる



アンケート抜粋

農業者「2～3年は一緒に作業をし、経験値を増やし、自立した落花生栽培を目指してほしい。」

施設「利用者の声として『楽しかった』との声が上がった。作業自体も利用者によっては問題なくできると感じた。」

作業における配慮、指導方法のポイント

作業の際はトラクターなどの機械に近づきすぎないようにする。

掘り起こされた落花生は、茎の下の部分をしっかり持って引き抜く。

作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円台	2千円台	3千円台	4千円台	5千円台	6千円台	7千円台	8千円台	9千円台	1万円以上			
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
難易度	易しい	普通	難しい	地域性	西部	中部	東部	障がいの種	障がいの類	身体	知的	精神	その他

マコモタケの出荷前調整作業

モデル事業による受委託の事例

マコモタケは「マコモ」というイネ科の水生多年草の栽培種で、根元の肥大した部分を食用にする。主に東南アジアや台湾などで栽培されており、しゃきしゃきした食感はタケノコに似て、ほのかな甘みがあるのが特徴。

岩美町では転作作物としてマコモタケが導入されており、現在では7戸の農家が約64アールで栽培している。毎年5、6月頃に植付け、10月上旬から11月上旬にかけて出荷されている。

生産組合からの受託作業で、JAが原材料を施設に搬入し、作業は施設内で行った。施設を利用する精神障がい者3人で作業した。

生産者からは、マコモタケは収穫して出荷までに行う作業が多く大変なので、皮むきをしてもらえるのは助かるとの声があった。



作業風景

座っての作業のため、立ち仕事に比べ疲労は少ない。

衛生面から帽子、マスク、手袋をして作業をしている。

「皮をむく作業は気持ちいい」という施設利用者もいた。

むき終わったマコモタケ

レンジ等で加熱して和え物にしたり、炒め物、天ぷらなどにして食べるとおいしい。

